

マラッカ・シンガポール海峡に関する概況（背景等）

（１）マラッカ・シンガポール海峡の重要性

マラッカ・シンガポール海峡は、インドネシア、シンガポール及びマレーシアを沿岸国とする国際海峡で、スエズ運河の４倍、パナマ運河の１０倍以上という世界有数の通航量を誇っており、我が国の輸入原油も８割以上がこの海峡を通航するなど、国際貿易、エネルギー輸送の要衝となっています。

（２）我が国のこれまでの主な貢献（航行安全、環境保全分野）

昭和43年以降、マラッカ協議会等を通じ、次の支援を行ってきています。

○安全対策－航路標識の整備・維持管理、設標船の寄贈、水路測量・海図編纂、沈船・浅瀬の除去等（132億円）

○環境対策－集油船の寄贈、回転基金の設立、OSP AR計画等（15 億円）

（３）国際的動向（IMO主催会議の開催）

①ジャカルタ会議

2001年９月11日に発生した米国同時多発テロ事件以降、IMOを中心に重要なシッピングレーンにおけるセキュリティ対策の必要性が唱えられ、2005年９月、インドネシアにおいてセキュリティだけでなく、航行安全と環境保全に関する取り組みを強化するための「ジャカルタ会議」が開催されました。

②クアラルンプール会議

2006年９月、ジャカルタ会議のフォローアップとして、マレーシアにおいて「クアラルンプール会議」が開催されました。同会議では、沿岸国から次の国際協カメカニズムとプロジェクトが提案されました。

○国際協カメカニズム

- ① フォーラム
- ② プロジェクト調整委員会
- ③ 航行援助施設基金

○プロジェクト

- ① TSS（分離通航帯）内の沈船の除去
- ② HNS（有害危険物質）対応への協力
- ③ AIS（船舶自動識別装置）クラスBの実証
- ④ 潮汐・潮流・風観測システムの整備
- ⑤ 既存の航行援助施設の維持更新
- ⑥ 津波被害を受けた航行援助施設の復旧整備